

「配偶者等からの暴力に関するアンケート」の実施結果報告

実施所属：三重県子ども・福祉部子育て支援課

「配偶者等からの暴力（DV）に関するアンケート」の結果を下記のとおり報告いたします。

アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆様には厚くお礼申し上げます。
アンケート結果につきましては、今後の取組の参考とさせていただきます。

アンケート概要

- 1 実施期間 令和元年7月10日（水）から令和元年7月31日（水）まで
- 2 対象者数 1,073人
- 3 回答者 761人
- 4 回答率 70%
- 5 回答者性別 男性 382人（50.2%）、女性 375人（49.3%）、
無回答 4人（0.5%）

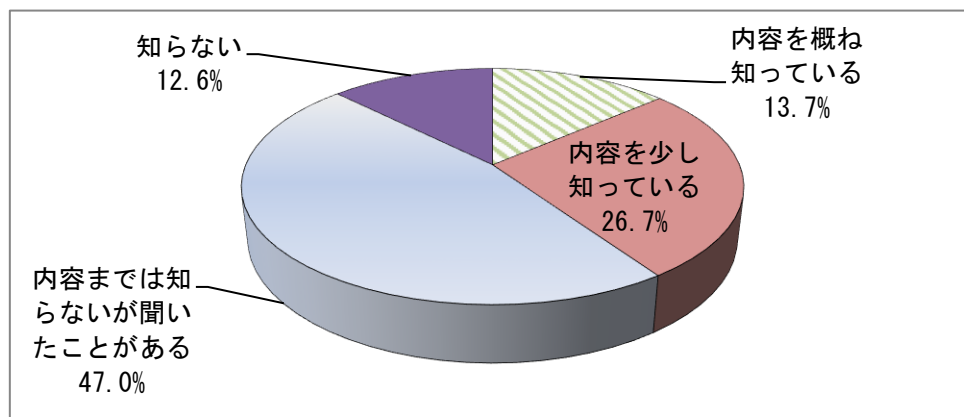
アンケート結果

注）グラフ、説明文中の割合は少数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

Q1 DV防止法の認知度について

（はじめに、子育て支援課からお聞きします。）

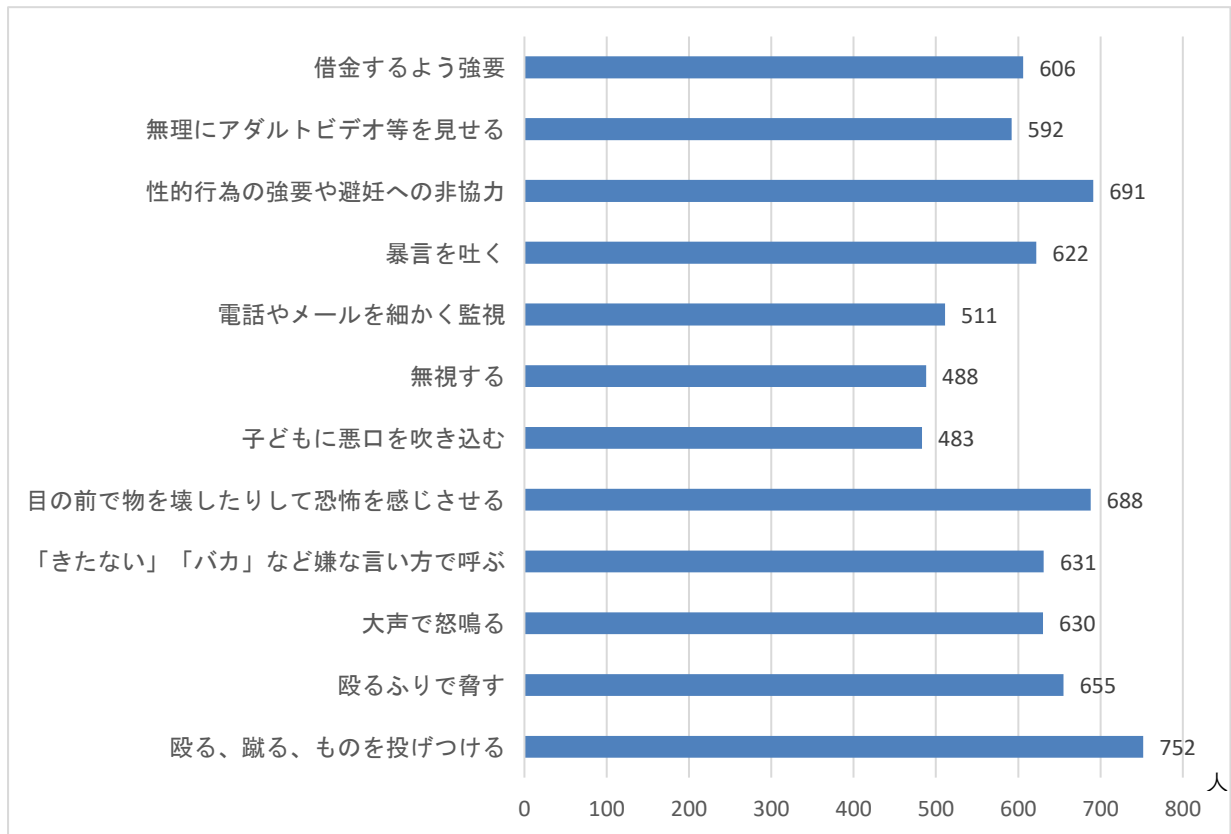
あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（通称DV防止法）を知っていますか。）



DV防止法を知っているか聞いた結果、「内容を概ね知っている」と「内容を少し知っている」と回答した人を合わせた割合は40.4%であり、約4割の人が内容を知っていました。

Q2 DVについて

(あなたは、次のことが配偶者等の間で行われた場合、それをDVだと思えますか。DVだと思えるものをすべて選んでください。)



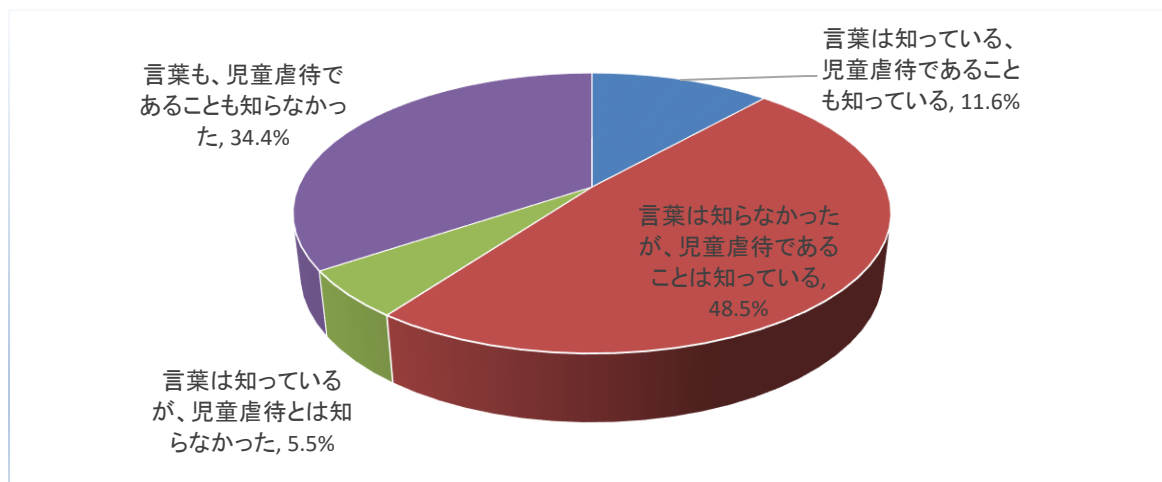
選択肢は、すべてDVに該当します。

DVだと思えるものを聞いた結果、「殴る、蹴る、ものを投げつける」との回答が752人(98.8%)と最も多く、「性的行為の強要や避妊への非協力」691人(90.8%)「目の前で物を壊したりして恐怖を感じさせる」688人(90.4%)と続きました。「子どもに悪口を吹き込む」「無視する」をDVだと思える人は約6割でした。

Q3 面前DVの認知度について

(あなたは、面前DVが児童虐待に該当することを知っていますか。

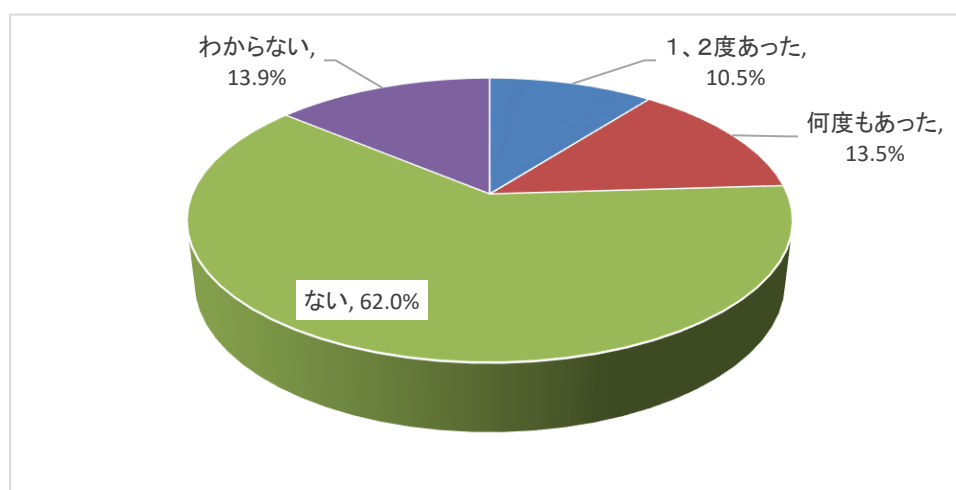
子どもの前などで親が配偶者に暴力を振るうことを「面前DV」といい、子どもの脳を委縮させたり、心的外傷（トラウマ）として残ることから、子どもに対する心理的虐待と位置づけられています。)



面前DVを知っているか聞いた結果、「言葉は知っているし、児童虐待であることも知っている」「言葉は知らなかったが、児童虐待であることは知っている」との回答を合わせると60.1%が、児童虐待であることを知っていることが確認できました。

Q4 暴力を受けた経験について

(あなた、またはあなたの家族や友人・知人が、これまでに配偶者等からQ2のような行為を受けたことがありますか。「ない」「わからない」を選んだ方は、Q8にお進みください。)



ご本人またはご家族、友人、知人がDVの経験があるかを聞いた結果、「何度もあった」「1、2度あった」と回答した人は合わせて183人(24.0%)でした。一方「わからない」と答えた人は106人(13.9%)でした。

Q5 受けた暴力の種類について

(Q4で、「1、2度あった」「何度もあった」とお答えいただいた方にお聞きします。

それは、次のどれにあてはまりますか。当てはまるものをすべて選んでください。)

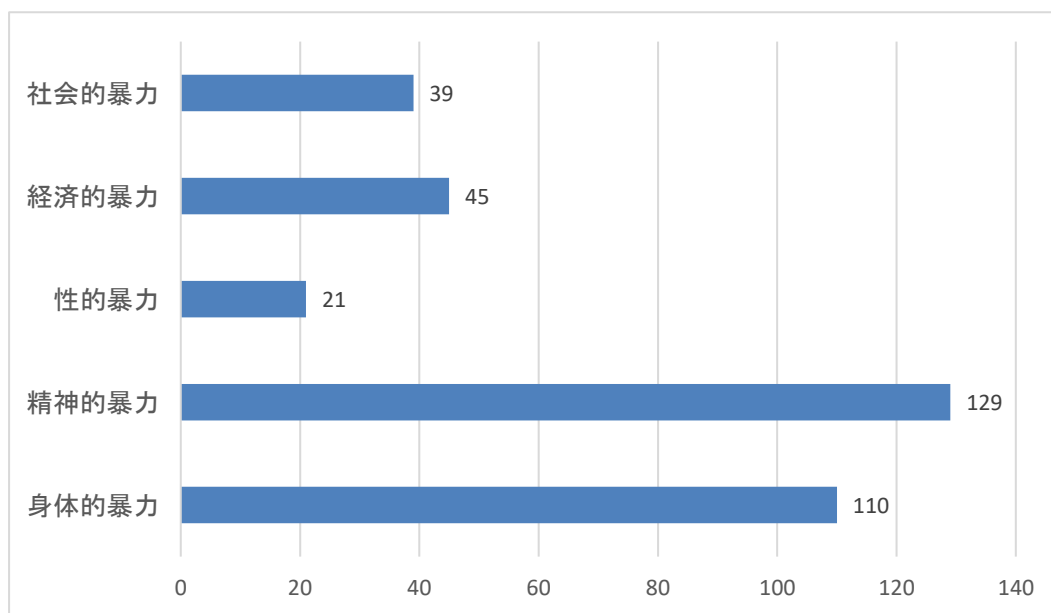
※身体的暴力・・・殴ったり、蹴ったり、物を投げつけるなどの身体に対する暴行。

※精神的暴力・・・人格を否定するような言葉の暴力や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせ。自分や自分の家族に危害を加えるのではないかと恐怖を感じるような脅迫行為。

※性的暴力・・・嫌がっているのに性的な行為を強要する。アダルトビデオを見ることを強要する。

※経済的暴力・・・生活費を渡さないなど経済的に相手を束縛する行為。

※社会的暴力・・・実家や友人とのつきあいを制限する、行動を監視するなどの行為。

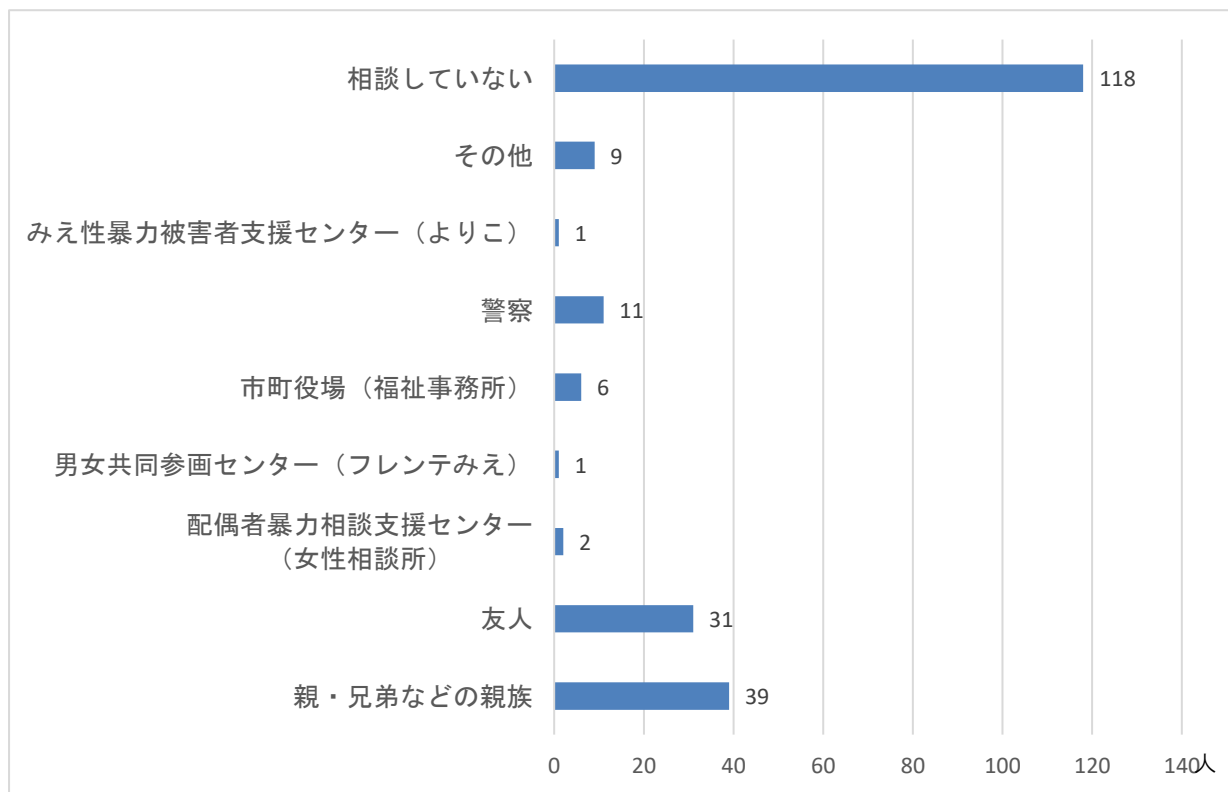


暴力を受けたことが「1、2度あった」「何度もあった」と回答された人に、受けた暴力の種類を聞いた結果、「精神的暴力」との回答が129人(70.5%)、「身体的暴力」との回答が110人(68.1%)でした。

Q6 相談の有無について

(Q4で、「1、2度あった」「何度もあった」とお答えいただいた方にお聞きします。あなたはそのことを、どこか(誰か)に相談しましたか。相談した場合は、相談先としてあてはまるものをすべて選んでください。

「相談していない」を選んだ方はQ7へ、「相談していない」以外を選んだ方は、Q8にお進みください。)

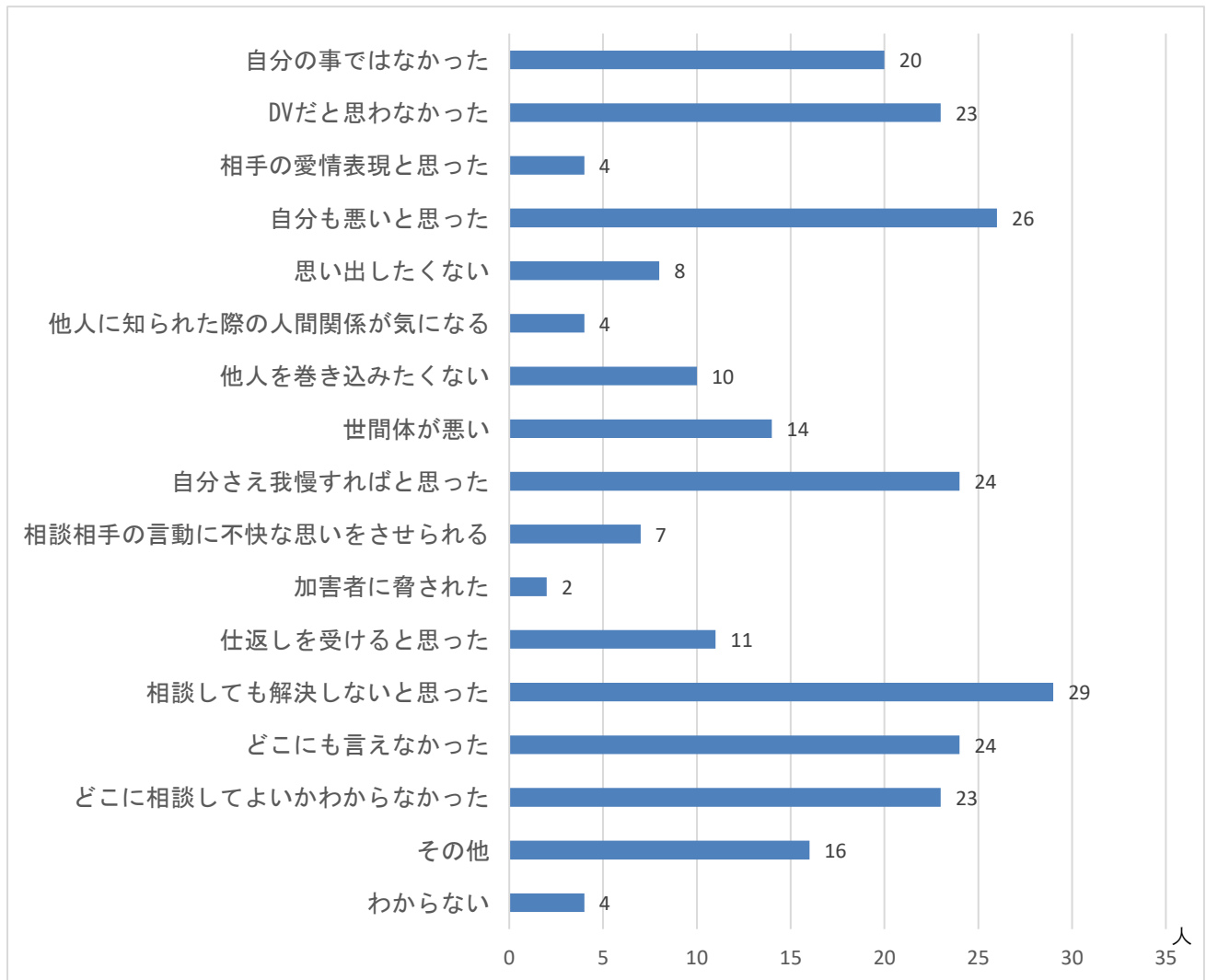


暴力を受けたことが「1、2度あった」「何度もあった」と回答された人に、相談の有無を聞いた結果、「相談していない」との回答が118人(64.5%)でした。

Q7 相談しなかった理由について

(Q6で、「相談していない」とお答えいただいた方にお聞きします。

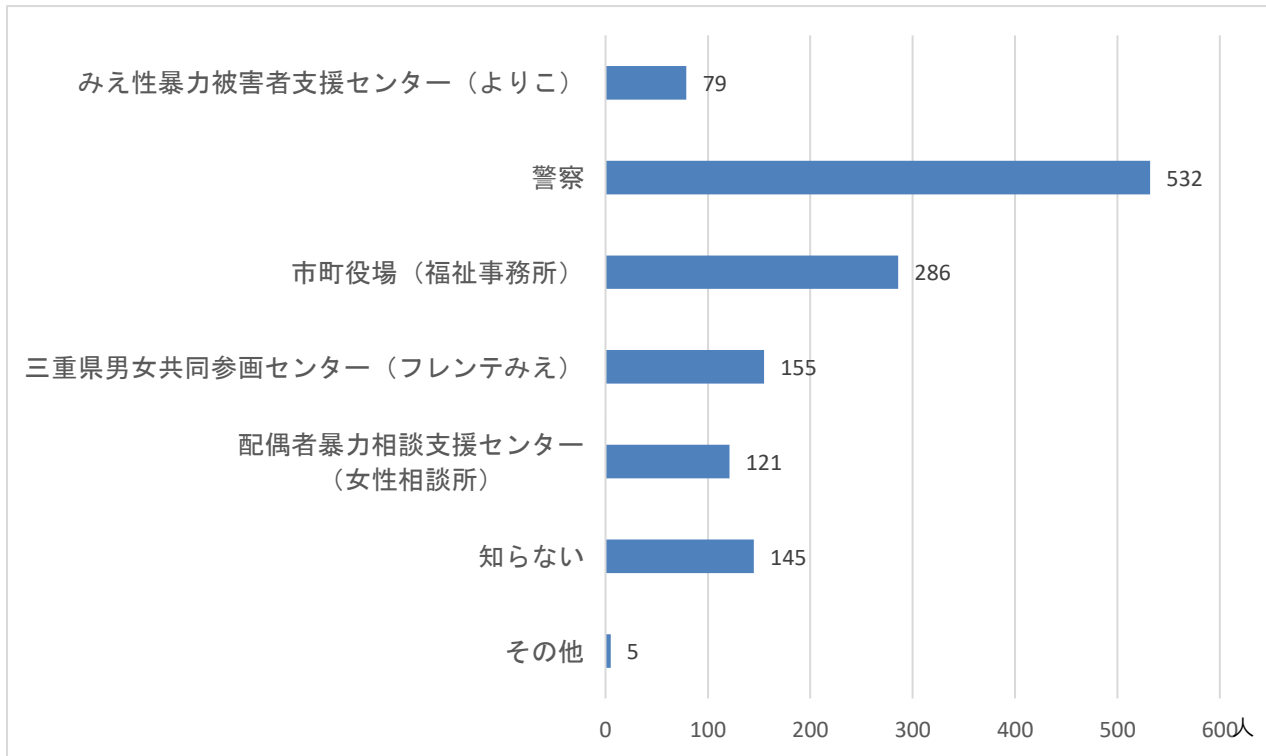
あなたが、相談しなかった理由について、あてはまるものをすべて選んでください。)



相談しなかった人(118人)に理由を聞いた結果、「相談しても解決しないと思った」との回答が29人(24.6%)、「自分も悪いと思った」との回答が26人(22.0%)でした。また、「どこに相談してよいかわからなかった」と回答した人が23人(19.5%)でした。

Q 8 相談窓口の認知度について

(あなたは、DVについて、県内に相談できる窓口(場所)があることを知っていますか。知っている相談窓口をすべて選んでください。)

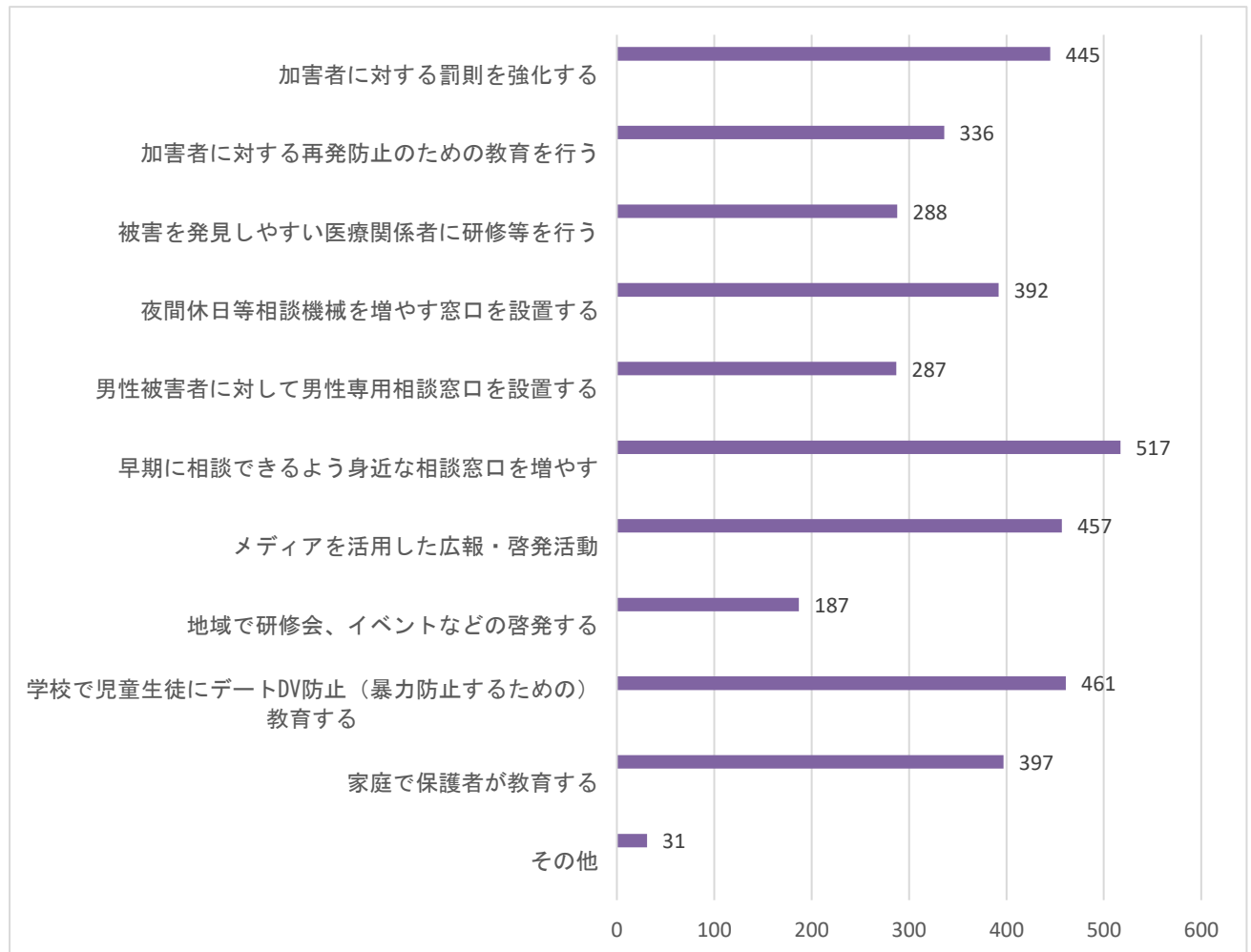


相談窓口を知っているか聞いた結果、「警察」との回答が最も多く532人(69.9%)、次に「市町役場(福祉事務所)」との回答が286人(37.6%)でした。また、「知らない」との回答が145人(19.1%)でした。

Q9 DV防止・被害者支援対策について

（あなたは、DVを防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。必要だと思うものをすべて選んでください。

※デートDV・・・交際中の若いカップルの間で起こる暴力を指します。



DVを防止するための対策について聞いた結果、「早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす」との回答が517人（67.9%）、「学校で児童生徒にデートDV防止（暴力を防止するための）教育する」との回答が461人（60.6%）でした。

<総論>

DVを受けても、「自分が悪いと思った」や「DVと思わなかった」などから、相談をしていなかったり、どこへ相談したらいいかわからないとの意見がありました。

このことから、DVに該当する行動や相談窓口の周知に努めることが必要であると認識できました。

今回の結果から、今年度策定の「三重県DV防止及び被害者保護・支援基本計画第6次計画」の参考にさせていただきたいと考えています。

「リニア中央新幹線全線開業前後の大阪への移動手段などに関するアンケート」の 実施結果報告

実施所属：三重県地域連携部交通政策課

「リニア中央新幹線全線開業前後の大阪への移動手段などに関するアンケート」の結果を下記のとおり報告いたします。

アンケートにご協力いただきました回答者の皆様に厚くお礼申し上げます。

アンケート結果につきましては、今後の業務等の参考とさせていただきます。

アンケート概要

- 1 実施期間 令和元年7月10日（水）から令和元年7月31日（水）まで
- 2 対象者数 1,073人
- 3 回答者 761人
- 4 回答率 70%
- 5 回答者属性

【年代別】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	3人	49人	156人	204人	162人	133人	54人
割合	0.4%	6.4%	20.5%	26.8%	21.3%	17.5%	7.1%

【地域別】

	北勢	中勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
人数	373人	216人	87人	65人	20人
割合	49.0%	28.4%	11.4%	8.5%	2.6%

※北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、桑名郡、員弁郡、三重郡

中勢：津市、松阪市、多気郡

伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡

伊賀：名張市、伊賀市

東紀州：尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡

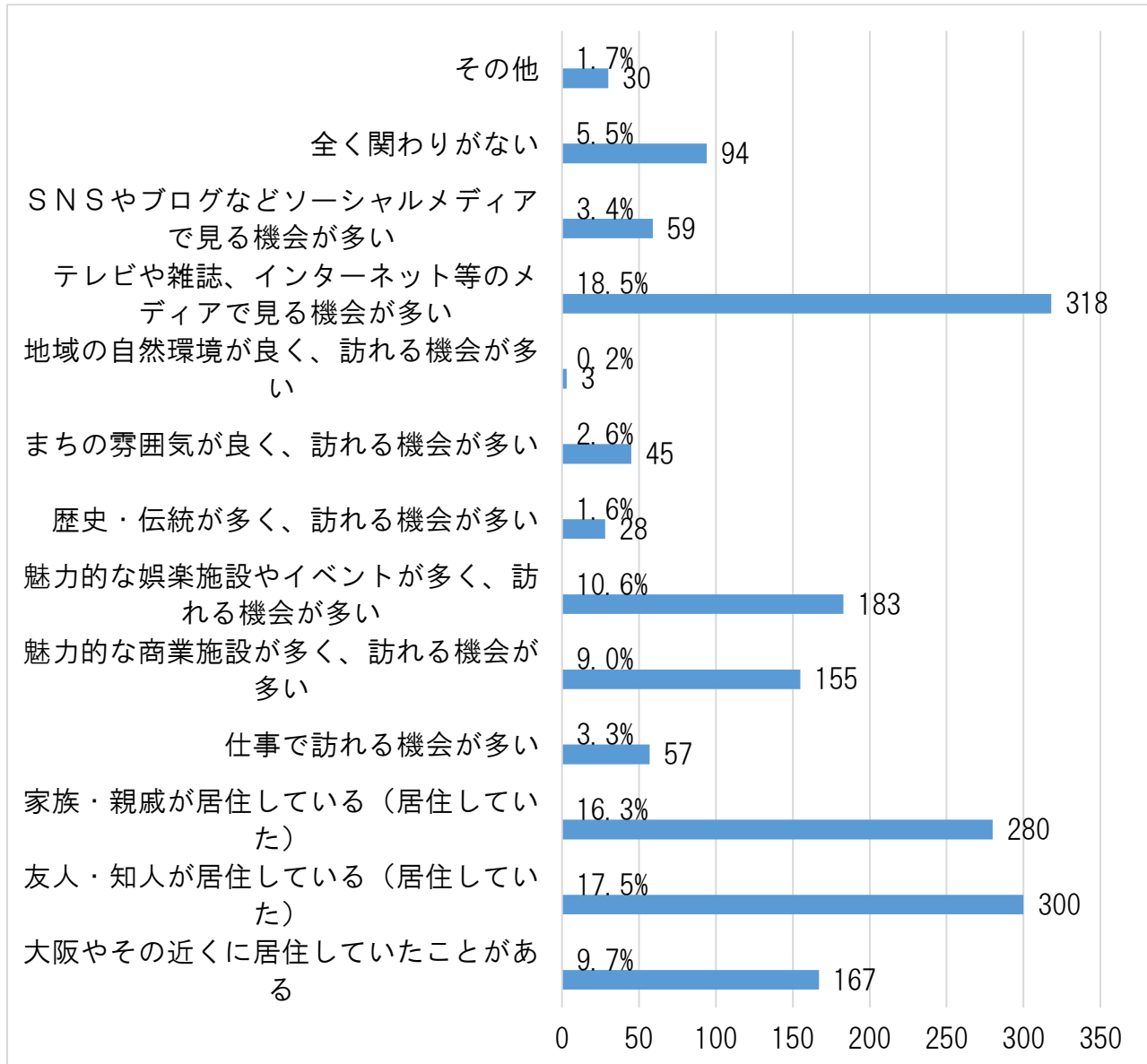
※割合は少数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

アンケート結果

Q11 大阪とのつながりについて

(ここからは、交通政策課からお聞きします。)

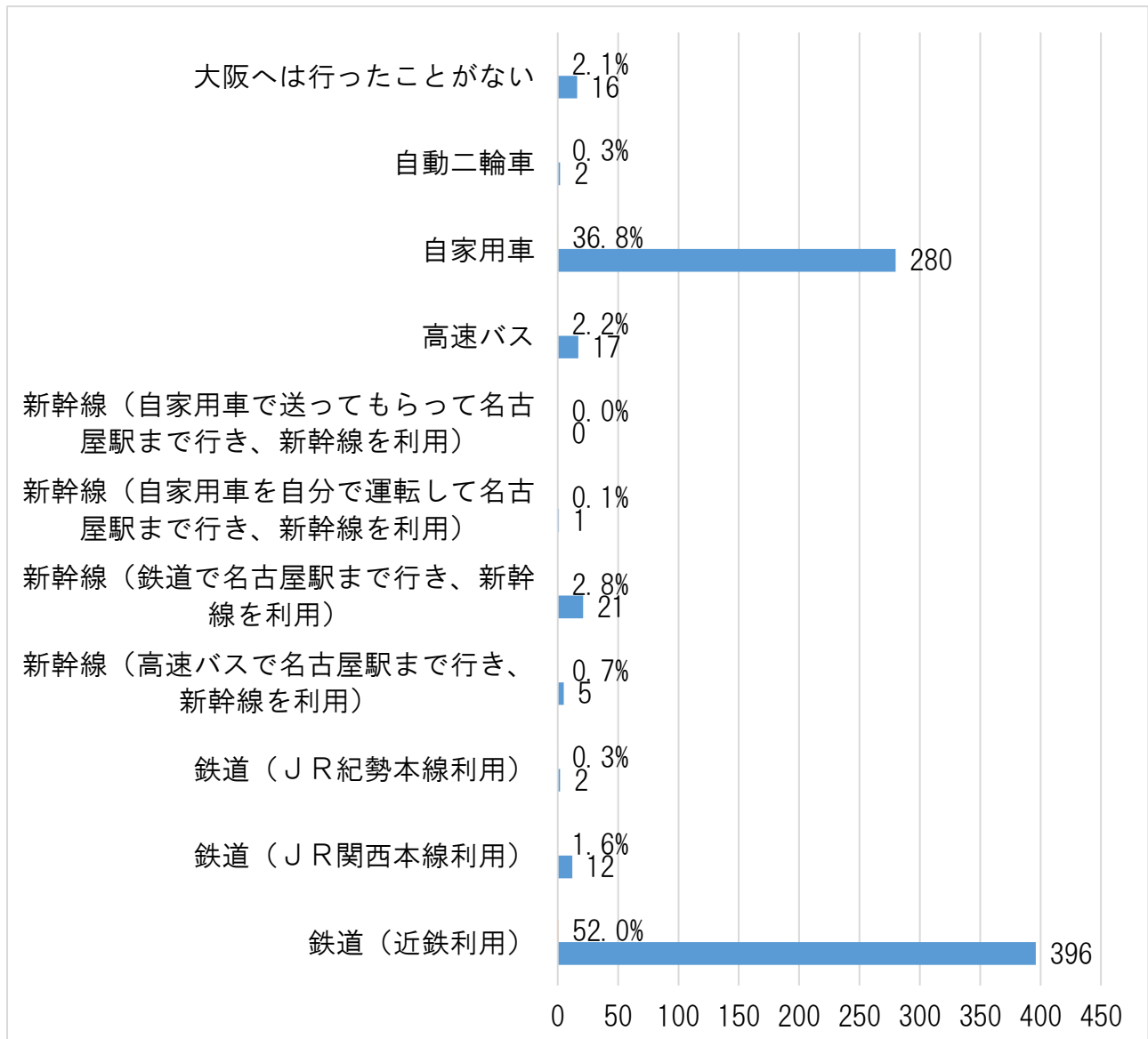
あなたと、大阪との関わりについて、あてはまるものをすべて選んでください。)



大阪とのつながりについて聞いた結果、「本人・家族・友人が居住している（居住していた）」との回答が合計で43.5%、「娯楽や仕事等で訪れる機会が多い」との回答が合計で27.3%、「メディアで見る機会が多い」との回答が合計で21.9%、「全く関りがない」との回答が5.5%であり、9割以上の方が大阪とのつながりがあることが確認できました。

Q 1 2 現在の大阪への移動手段について

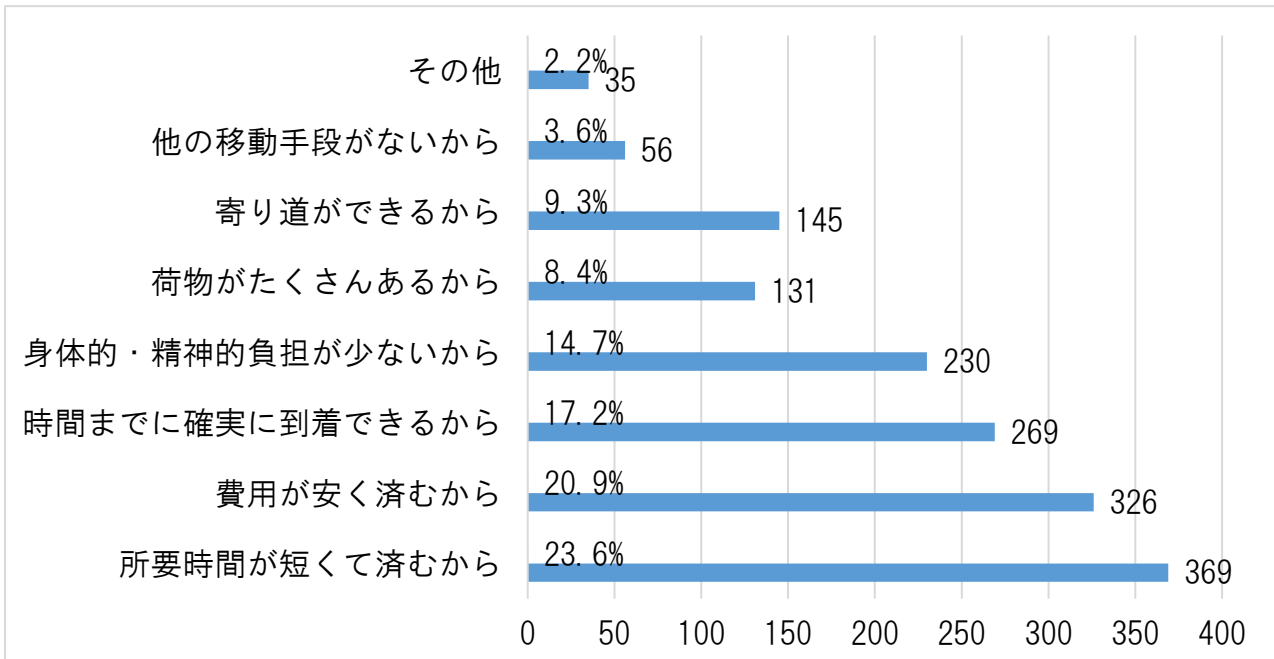
(あなたが、大阪に行く際に利用する主な移動手段について、あてはまるものを1つ選んでください。「大阪へは行ったことがない」を選んだ方は、回答後はQ 1 4にお進みください。)



現在の大阪への移動手段について聞いた結果、「鉄道(近鉄利用)」との回答が52.0%、「自家用車」との回答が36.8%であり、約半数の人が鉄道(近鉄利用)で大阪に行くことが確認できました。

Q 1 3 現在の大阪への移動手段を選択する理由について

(Q 1 2で「大阪へは行ったことがない」以外を選んだ方にお聞きします。
あなたが、移動手段を選択する理由として、あてはまるものをすべて選んでください。)



現在の大阪への移動手段を選択する理由について聞いた結果、「所要時間が短くて済むから」との回答が23.6%、「費用が安くて済むから」との回答が20.9%、「時間までに確実に到着できるから」との回答が17.2%であり、時間や費用を重要視する人が多いことが確認できました。

Q 1 4 品川・大阪間全線開業後の大阪への移動手段について

(リニア中央新幹線の県内のルート位置については、リニア中央新幹線ルート概念図で20km幅で示されており、本県内にも中間駅として三重県駅の建設が検討されています。

(ルート概念図については、添付ファイル欄の「Q 1 4 linear-route」をご覧ください。)

全線開通後、本県から大阪へリニアを利用して訪問する際は、名古屋駅からの乗車と中間駅(三重県駅想定)から乗車の2つの乗車方法が想定されます。

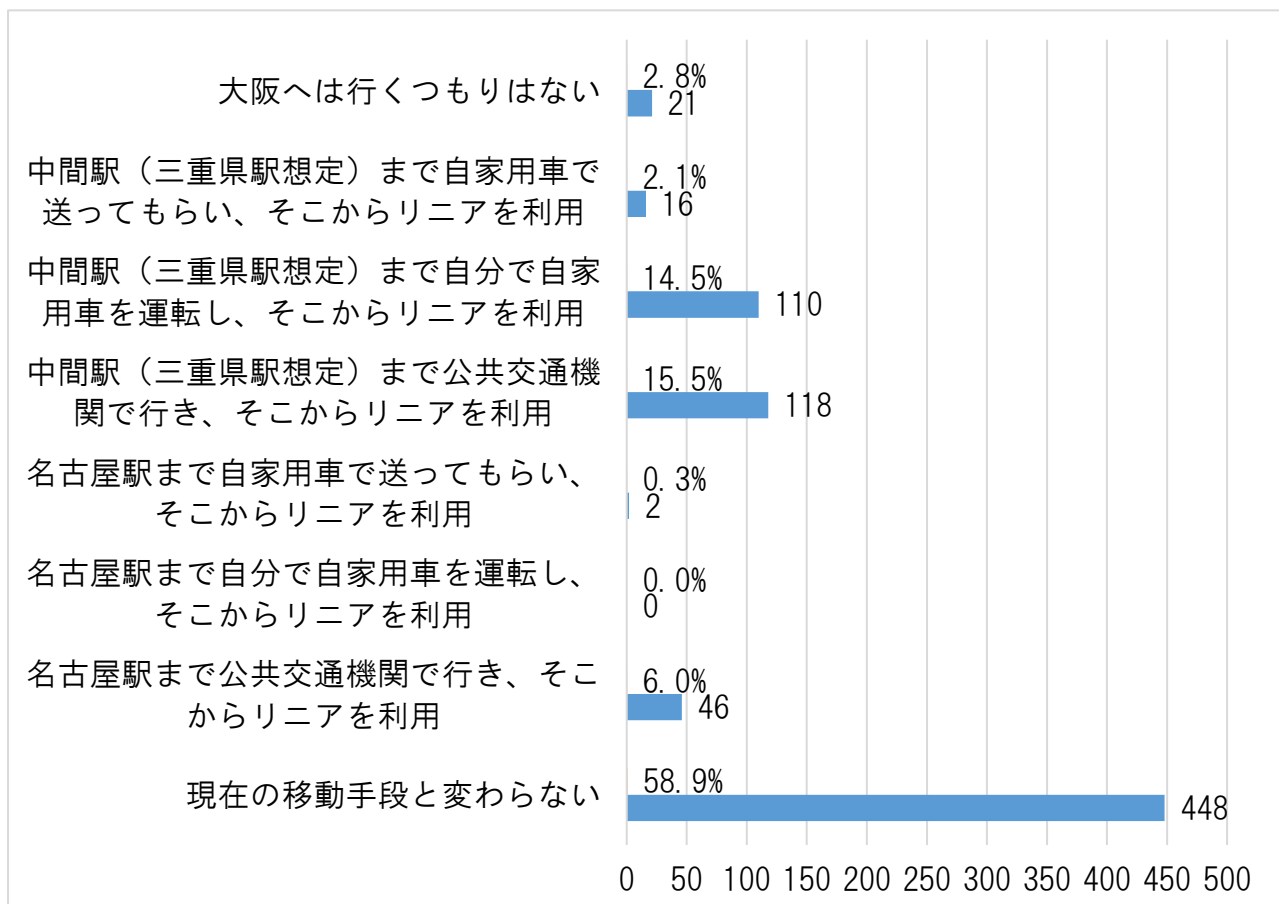
名古屋・新大阪間の所要時間を約30分、運賃を約7,000円、運行本数を8本/時間(※1)と想定し、中間駅(三重県駅想定)・新大阪間の所要時間を約20分、運賃を約4,000円、運行本数を2本/時間(※2)と想定した場合、

全線開業後の大阪に行く際に利用する主な移動手段について、あてはまるものを1つ選んでください。

(※1 中央新幹線(東京・名古屋間)環境影響評価書(平成26年8月)より引用)

(※2 新幹線のぞみとこだまの運行本数割合から算出)

「現在の移動手段と変わらない」「大阪へは行くつもりはない」を選んだ方は、質問はこれで終了です。)

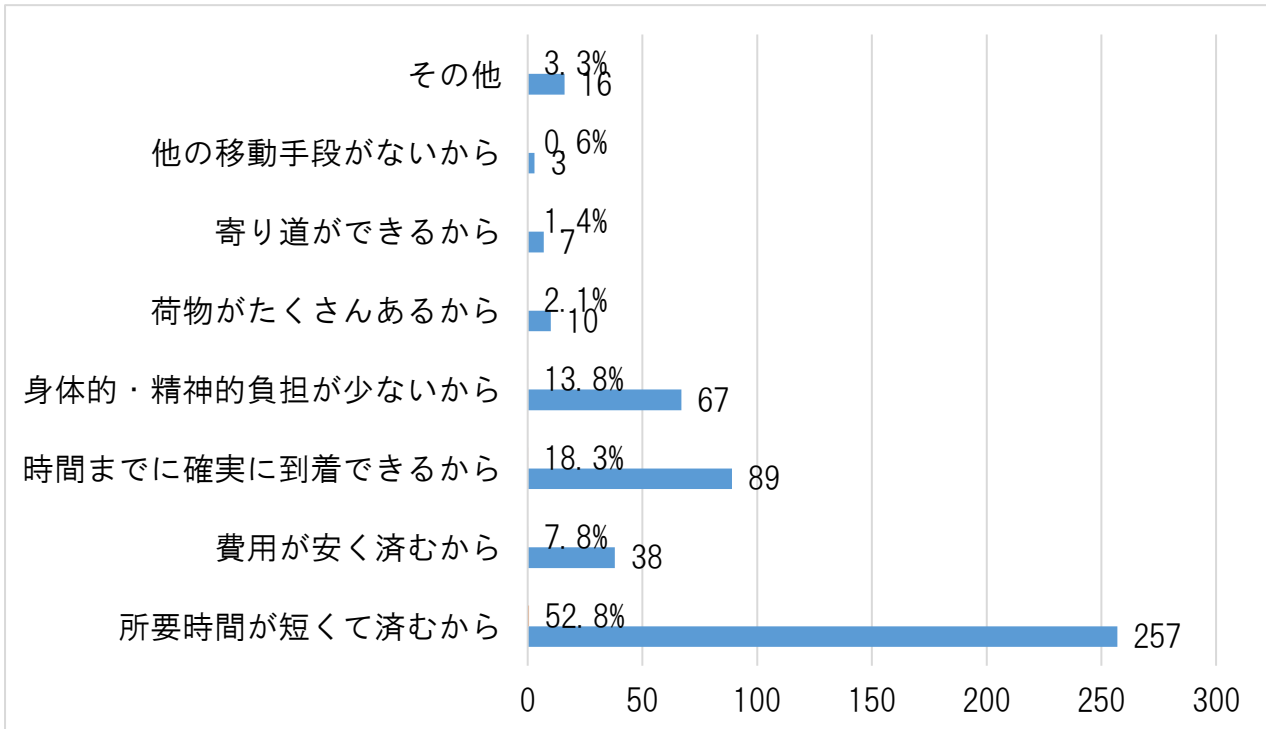


品川・大阪間全線開業後の大阪への移動手段について聞いた結果、「現在の移動手段と変わらない」との回答が58.9%、「中間駅からリニアを利用」との回答が合計で32.1%であり、中間駅からリニアを利用したいとの意見が3割程度いることが確認できました。

Q15 品川・大阪間全線開業後の大阪への移動手段を選択する理由について

(Q14で「現在の移動手段と変わらない」「大阪へは行くつもりはない」以外を選んだ方にお聞きします。

あなたが、リニアを利用する理由として、あてはまるものをすべて選んでください。)

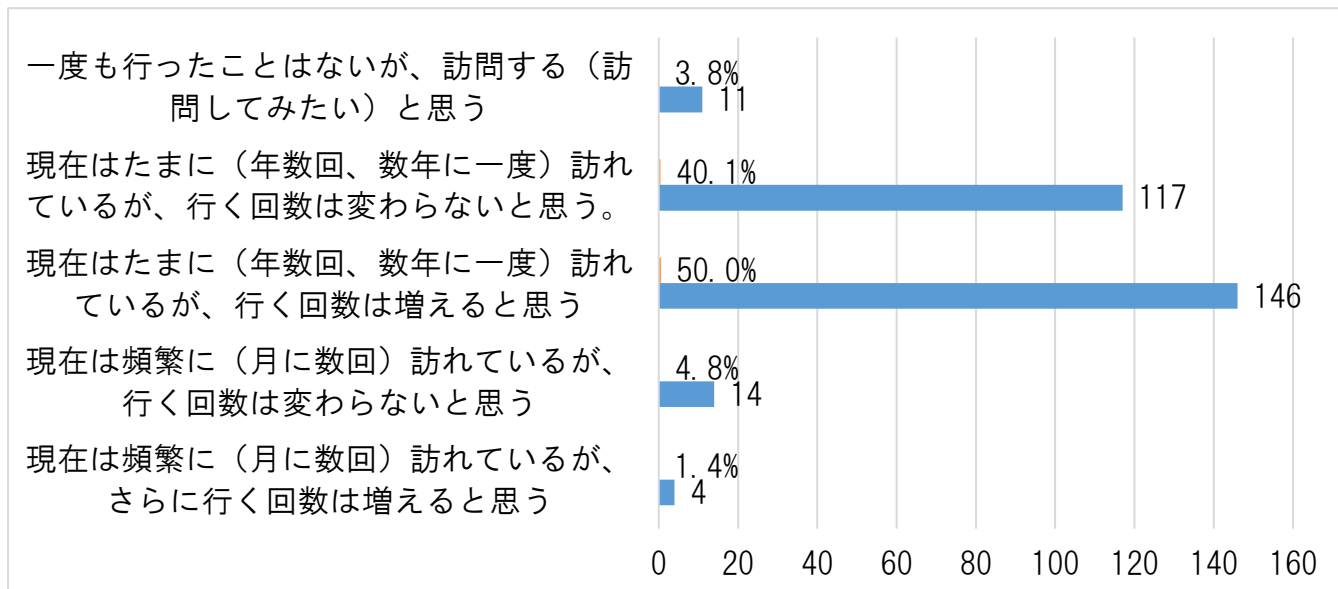


品川・大阪間全線開業後の大阪への移動手段を選択する理由について聞いた結果、「所要時間が短くて済むから」との回答が52.8%、「時間までに確実に到着できるから」との回答が18.3%であり、時間を重要視する人が多いことが確認できました。

Q16 大阪間全線開業後に大阪に行く回数について

(Q14で「現在の移動手段と変わらない」「大阪へは行くつもりはない」以外を選んだ方にお聞きします。

あなたは、リニア中央新幹線が開通したら、リニアを利用して大阪に行く回数が増えると思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。)



大阪間全線開業後に大阪に行く回数について聞いた結果、「行く回数が増える」との回答が合計で55.2%、「行く回数は変わらない」との回答が合計で44.9%であり、開業後に大阪に行く回数が増えるとの意見が半数以上いることが確認できました。

<総論>

大阪とのつながりがある方が9割と多く、移動手段の選ぶ理由は時間との意見が4割と一番多い結果となりました。しかしながら、リニア中央新幹線東京・大阪間開業後に大阪に行く回数が増えるとの意見が4割強との結果となりました。

このことから、リニア中央新幹線の開業に伴い、どのような効果が生まれるのか、それがわれわれの生活にどのような影響を与えるのかといった具体的なイメージを持っていただくことが必要であると認識できました。